

## 第179回ユネスコサロン感想文

# 堀江さんの被爆体験を聞いて

第179回ユネスコサロンは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期を余儀なくされ、計画から2年5カ月を経てオンラインによる開催となった。

今回は被爆体験語り部の堀江壮さんをお迎えして、自らの被爆体験をもとに、平和への取り組みについてお話しいただいた。4歳10カ月のときに受けた悲惨な体験は心の奥に深く刻み込まれ、70数年経た現在も色褪せてはいなかった。落ち着いた語り口調の中からは、謙虚な姿勢で人生を歩み、真に平和を願う心が窺われた。

「なぜ戦争と紛争を止めなければいけないか」の問いに対して、①多くの人々が殺される。②貴重な資源を使いすぎる。③環境が破壊される。④悲しみ、憎しみ、怒りが長期にわたり残る。一戦争を止めるには「情報が統制されているので、祈るより社会体制を変えないといけない」と話された。被爆者ならではの重い言葉であると感じた。

このとき、折しもロシアがウクライナ軍事侵攻に踏み切って10日になる。改めてユネスコ憲章の言葉「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」をかみしめたい。

文化部会長 高田幸子



Zoom で講演される堀江さん



当時の堀江家の家族写真